

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第4号

令和8年6月25日（木）発行



「自分から 自分で 自分へ」

校長 工藤 博也

先日、今井先生による3年生体育「バレーボール」の全校研究授業を行いました。恵那西中学校は、東濃地区の研修校として来年度秋の研究発表会に向けて取組を進めており、年におよそ2回の研究授業を通して、日常の授業の成果や課題を確認しています。

本校の研究テーマは、**「学びを調整し、主体的に学び続ける生徒の育成」**です。生徒が主体的に学ぶために、本校では「自分で考える」「仲間と考える」「タブレットや資料を活用する」など、学び方を自分で選びながら学習を進められるようにしています。そのため、教員は教えるだけでなく、生徒の学びに寄り添う「伴走者」として関わり、生徒一人一人が確かな学力の定着に向け、自分に合った学びを自分で考え、自分のペースで進められる時間を大切にしています。

このような「学びを調整する力」は、教科の力を身に付けるだけでなく、将来、社会の中で人と協力しながら課題を解決していく力にもつながるものと考えています。

今回のバレーボールの授業では、チームでの連携プレーの中で、自分の動きに目を向けた「個人の課題」をもつことを大切にしました。技能や声を出すことに苦手意識がある生徒も、自分なりの課題をもつことで、うまくいかなかったときに「いつ判断して構えればよかったか」と振り返るなど、前向きに取り組む姿が見られました。授業の終わりには、自分の課題について「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を具体的に振り返る姿が多く見られ、学びを調整しようとする姿が育ってきていることを感じました。また、「もっと早く構えるといいよ」といったアドバイスや、「次がんばろう」と声をかけ合う様子も見られ、仲間と支え合いながら学ぶよさが表れた授業となりました。

「学びの調整」は、学習指導要領でも重視されている考え方であり、今後の教育においても大切にされていく力です。今回の研究授業を一つの節目として、来年度秋の東濃地区研究発表会に向けて、さらに実践を積み重ねていきます。

■設置型資源回収（6月19日～29日）■



見出しの期間に設置型で、資源回収を実施したところ、多くの方から協力をいただきありがとうございました。

市からいただく予算では、生徒の充実した教育環境を十分整えることは難しく、PTAのご支援は今後とも必要となります。今年度はPTA活動の負担軽減と生徒の充実した教育環境どちらも考えた末、6月は設置型、10月は回収型を予定しております。今回の設置型がうまくいけば、設置型に移行していきたいと考えております。丘の上に立つ西中まで持ってきていただくのは大変ですが、一人一人が少しずつ負担を分け合いながら、西中の教育環境の充実にお力添えいただきたいと思います。